

「アート」を楽しむ



「食欲の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」など、秋は満喫できることがたくさんある季節です。学校では、先月全校で稲刈りをして収穫フェスティバルで「食欲の秋」を楽しむ準備をしています。また、先週は秋晴れのもと青空マラソンで「スポーツの秋」に挑戦しました。そして、来週には文化祭が開催され、保護者や地域の人たち皆で「芸術の秋」を堪能します。

今、「芸術」という言葉を使いましたが、少し高尚なイメージがあります。「芸術」の英語訳は「アート (art)」です。しかし、「芸術」と「アート」は、微妙に意味が異なる気がしませんか。インターネットのウィキペディアで調べると次のように書かれていました。

- 「芸術」 → 表現者あるいは表現物と、鑑賞者が相互に作用し合うことなどで、精神的・感覚的な変動を得ようとする活動。文芸(言語芸術)、美術(造形芸術)、音楽(音響芸術)、演劇・映画(総合芸術)などを指す。
- 「アート」→ 芸術・美術など間接的に社会に影響を与え得るものである。

では、両者の違いは何でしょう。私は、下線に引いた部分が一番の違いと考えています。作品そのものより、作品を通して地域や社会を動かしたり、変化させたりするのが「アート」とらえています。ここには、場やプロセスも含めて考えたいです。

先号の学校便りにも紹介しましたが、私は夏休み中から先月にかけて、各地の芸術祭を回りました。作品を見ることも目的でしたが、作品を製作するプロセスや、作品にかかわる地域の人たちの思いや願いを感じるのが好きで回っていました。

その中で4回ほど通ったのが、水と土の芸術祭地域拠点プロジェクト『硝子の里復活「かつて新津はガラスの一大産地でした」』の会場「秋葉硝子」さんです。題名にあるように、新潟市秋葉区新津は、古くから十数社のガラス工場が立ち並び、全国的にも有名なガラス製造の一大産地だったそうです。ところが現在は「秋葉硝子」さんただ1軒だけとなりました。それも約50年間4代に渡り操業してきたガラス工場の倒産を機に、建物と機械設備を受け継ぎ、2014年より「秋葉硝子」として新たに活動を始めたのだそうです。

この「秋葉硝子」さんは、ガラス製品の製造販売をしていますが、地域活性化の拠点として存在していることが大きな特色です。芸術祭参加だけでなく、以前より工場の中に、他の作家さんを招いてワークショップを実施したり、ジャズのコンサートを定期的で開催したり、地元農家によるフードコートで地産地消を勧めたりしています。ガラス製品だけでなく、いろいろな楽しみを求めてたくさんの人が集まっています。

代表の照井康一さんや工房の人たちの目標は、これまで培った技術や技法を『地元新潟を盛り上げるためのガラス器の開発』という形で地域に貢献し、その技術を次の世代へ伝えていくことだそうです。まさに、地域の拠点となり、社会に大きな影響を与えていて、「アート」を感じさせてくれています。

さて、私は金屋小の文化祭を子どもたちの作品を見るだけでなく、「アート」の場にしたいと考えています。バザーや食品販売で人や物の交流が生まれます。地域の皆さんが「おらだり市」を開き、地域の物産が販売されます。学校や地域の昔を知るものが展示されます。

文化祭の日には、地域の拠点としてたんさんの人が集まり、わいわいとみんなで楽しみ、笑顔と「ありがとう」がふり注げばいいです。

21日は、皆さんのご来校をお待ちしています。
(文責:校長)



【昨年の「おらだり市」の様子】

気持ちの良いあいさつが響き渡りました

9月28日（金）は「あらかわあいさつの日」でした。金屋小卒業生の荒川中学校の生徒や地域の方、学校職員、そして6年生全員と5年生の運営委員会が学校に立ち、あいさつをしました。あいにくの雨で児童玄関前でのあいさつとなりました。登校してきた子どもたちは、玄関前にいる大勢の人たちに戸惑いながらもあいさつを交わしていました。



他の地区でも地域の方や保護者の方が立ち、子どもたちとあいさつをしました。「おはようございます。」が響き渡った気持ちの良い朝でした。

ご協力いただいた保護者・地域の皆様、朝早くからありがとうございました。

秋空の下での稲刈り

9月19日（水）の2時間目、全校稲刈りをしました。5年生が中心となり、準備、進行を行いました。

4～6年生が稲を刈り、縛りました。そして1～3年生がはさ木まで運びました。大勢のボランティアの方からも稲刈りの手伝いをいただきました。ありがとうございました。

収穫したお米は、11月14日（水）に餅つきをします。みんなで会食しながら収穫を祝いたいと思います。



子どもたちの頑張りに拍手！

10月4日（木）、爽やかな秋空の下、青空マラソンが行われました。走る前は子どもたちの笑顔、不安な顔等、様々な顔がありました。しかし走り終わると、みんな達成感のある顔に。全員完走という素晴らしい結果になりました。一緒に走ったり、子どもたちの安全確保のために監察をしてくださったりしたボランティアの皆様、ありがとうございました。また、学校や沿道で声援を送っていただいた保護者・地域の皆様、皆様の声援で子どもたちがあきらめずに頑張ることができました。誠にありがとうございました。

